

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
♪ジョイコン NEWS♪  
第69号(2025年2月)  
★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ジョイコンでは、来年度(2025年度)も6回の公演(奇数月第3日曜日)を予定しております。皆様から寄せられた Web アンケートのご希望等も参考にして、内部部会にて演奏者候補を選定し出演の交渉を行っているところです。決定次第、ホームページ(<https://www.ohkurayama-joycon.com/>)等で発表いたしますので、もうしばらくお待ちください。引き続き宜しくお願い申し上げます。

それでは、「♪ジョイコン NEWS♪」(第69号)をお届け致します。

\*\*\*\*\*  
【もくじ】

- 
- 【1】次回コンサートのご案内
    - ◆第73回コンサート
  - 【2】今後の予定(先取り情報)
    - ◆第74回コンサート
  - 【3】ニューヨーク製スタインウェイとハンブルク製スタインウェイ
  - 【4】コンサートのアンケートから

\*\*\*\*\*  
【1】次回コンサートのご案内(予約受付中です)

- 
- ★☆☆第73回コンサート☆☆☆
  - ◇2025年3月16日(日曜日)14時開演
  - ◇出演:青島周平(ピアノ)
  - ◇プログラム(予定)
    - ◆ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第23番 へ短調 Op.57「熱情」
    - ◆ショパン:ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 Op.35「葬送」
    - ◆リスト:ピアノ・ソナタ 変ロ短調 S.178
  - ◇料金:大人2,000円、高校生以下1,000円
  - ◇会場:横浜市港北公会堂(東急東横線 大倉山駅より徒歩7分)
  - ◇使用ピアノ:Steinway&Sons Model-D

第73回ジョイフルコンサートは、  
『青島周平ピアノ・リサイタル～調和と変容のピアノソナタ』と題して、お届けします。

\*\*\*\*\*  
青島周平さんからメッセージが届いています  
\*\*\*\*\*

この度大倉山コンサートに出演させていただくにあたり3つのピアノソナタを演奏します。構成や表現の面でも古典派の枠を越えたベートーヴェンのソナタ「熱情」、ロマン派でも古典の様式を尊重した美しい構成であるショパン「葬送ソナタ」、そして最後に単一楽章で壮大であり、ソナタの可能性を大きく広げたリストのソナタ、その変容をお楽しみいただけたら幸いです。お待ちしております！  
(青島周平)

\*\*\*\*\*  
第73回のジョイフルコンサートは第65回のコンサートのピアノ五重奏でピアノを弾いてくださった青島周平さんのソロピアノコンサートです。青島さんは横浜出身で、第32回かながわ音楽コンクール高校生の部で金賞を取られた時に港北公会堂が予選会場だったとおっしゃっていました。横浜にご縁の深い方です。難曲のソナタ3曲で意欲的なプログラムを組んでくださいました。どうぞお楽しみになさってください。

●ベートーヴェン  
ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)は、古典派からロマン派への移行を象徴する作曲家です。彼はドイツのボンに生まれ、幼少期から音楽の才能を示し、ウィーンで活動を広げ

ました。

師であるハイドンやモーツァルトから影響を受けながらも、自身の独自性を追求し、音楽史に大きな足跡を残しました。ベートーヴェンの作品は古典的な形式を保ちながらも、感情の深さや劇的な表現力に満ちており、後のロマン派音楽への道を切り開いたと言えます。

彼の32曲のピアノ・ソナタは「ピアノの新約聖書」とも称される重要な作品群であり、その中でも「熱情」(Appassionata)は特に評価されています。このソナタは、彼の中期の傑作として知られ、作曲家自身の内面的な情熱と葛藤が色濃く表現されています。

#### ●ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調 Op.57「熱情」

「熱情」は1804年から1805年にかけて作曲され、1807年に発表されました。

「熱情」というタイトルは後世の出版業者により呼ばれたものですが、作品全体に満ちる情熱を強く感じる人たちが多かったということではないでしょうか。

ベートーヴェンはこの時期、耳が聞こえないという音楽家としては致命的な障害と精神的な苦悩に直面しながらも、それを創作のエネルギーに変えていました。「熱情」は、そうした彼の内面的な葛藤が音楽に昇華された代表的な作品です。また、彼はこの頃、ナポレオンへの失望や社会的な動乱にも影響を受け、これらの感情が作品に反映されています。

「熱情」は3つの楽章からなり、それぞれが独自の個性を持っています。

#### 第1楽章 Allegro assai

苦しみに深く根ざしたドラマチックな始まり方で、和音が続きダイナミックに展開していきます。分析と表現力が問われる難度の高い楽章です。

#### 第2楽章 Andante con moto

第1楽章の情熱に対し、穏やかなメロディーが主題です。変ニ長調で書かれたこの楽章は、人間の内面に存在する幸福感を感じさせます。

#### 第3楽章 Allegro ma non troppo - Presto

再び情熱が爆発するフィナーレで、無限に続くかのような16分音符が特徴です。ピアニストにとっても体力と集中力が問われる大曲です。

「熱情」は音楽を楽しむためだけではなく、演奏者にとってテクニクの、表現的な挑戦とも言える難曲です。特に、第1楽章と第3楽章の脅威的な速度と複雑な音の構成は、ピアニストの技量が求められ、細部まで緻密に構築する意識が必要です。

「熱情」は最高峰と言えるぐらいの難曲なソナタで、テクニクはもちろん体力も気力も必要だと思います。青島さんがどのように弾いてくださるか、楽しみに待ちたいです。(A.N)

#### ■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

\*\*\*\*\*

#### 【2】今後の予定(先取り情報)

##### ★☆☆第74回コンサート☆☆★

◇2025年5月18日(日)

◇出演：カルテット・プリマヴェーラ(石川未央 Vn、清水咲 Vn、多湖桃子 Va、大江慧 Vc)

◇プログラム(予定)

◆ハイドン：弦楽四重奏曲 第76番 二短調 作品76-2「五度」

◆ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第3番 二長調 作品18-3

◆ドビュッシー：弦楽四重奏曲 ト短調 作品10

◇予約受付開始：2025年3月17日(月曜日)午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

\*\*\*\*\*

#### 【3】ニューヨーク製スタインウェイとハンブルク製スタインウェイ

濁りのない明るく華やかな音色。ピアニストの指の動きがそのまま音色に現れるといわれるスタインウェイのピアノ。スタインウェイのピアノにはニューヨーク製とハンブルク製があり、この2つは

実は微妙に違ってきます。

ドイツのピアノ職人だったスタインウェイは一家でニューヨークに渡り、1853年ニューヨークでスタインウェイ&サンズの会社を設立します。アメリカの地で独自に大きく発展したスタインウェイのピアノをヨーロッパの方からも買いたいという人が現れます。アメリカから輸出するのですごく高い価格です。需要が多いのでヨーロッパにも工場を作ろうということになって、1880年にドイツのハンブルクに工場ができました。1920年頃まではニューヨークから部材を送ってハンブルクの工場を組み立てているだけなので最初はハンブルクの製品もニューヨークの製品も全く同じでした。

ところが、アメリカのように多くのジャンルの音楽があるところでは十分だったのですが、ヨーロッパのお客様から「もっとクラシックに向くような音にならないか」という声があがってきました。その頃にはハンブルク工場も大きくなって部材をアメリカから送らなくても作れるようになっていたので「独自に作ろう」というように切り替わりました。メーカーとしてどんどん変えようというより音楽文化、そしてユーザーの求める音に合わせて変わっていったのです。

設計図は同じでしたが、作る時にアメリカは「インチ、ヤード」という寸法を使い、ドイツは「センチメートル」だったため寸法に微妙な誤差が出て、サイズの微妙に違っていました。

その他にも違いがあって、ニューヨーク製はアメリカ流に音そのものを徹底的に追求し材料にも糸目をつけないが音と関係ないところには手をかけない、それに対してハンブルク製はあらゆる点で完全性を指向し、音質、機構、仕上げにも神経をゆき渡らせています。

ニューヨーク製はブリリアントで明るくよく響く、ハンブルク製はブリリアントな響きの中に陰影を秘めていると言われたりもしますが、それぞれの人の好みや感じ方によるでしょう。

それで、見た目の違いを説明します。

- ① ペダルボックスの前面に真鍮の金色のプレートが付いているのがニューヨーク製、付いていないのがハンブルク製。
- ② 大屋根を支える「支え棒」の形がデザイン的なのがニューヨーク製、シンプルなのがハンブルク製。
- ③ 譜面台の形式で、譜面台を立てたら角度が変わらないのがニューヨーク製、角度がつけられ立てたりねかせたりできるのがハンブルク製。
- ④ 鍵盤両端の腕木と呼ばれる部分の角が直角なのがニューヨーク製、角が丸いのがハンブルク製。
- ⑤ ボディが艶消しなのがニューヨーク製、艶ありなのがハンブルク製（ただしこれは基本なので、注文時にニューヨーク製に艶ありとか、ハンブルク製に艶消しとか言えるそうです）

日本に入っているスタインウェイはほとんどハンブルク製だそうです。

次回（3月16日）のジョイフルコンサートで使用されるスタインウェイ モデルD（奥行き274cm、幅156cm、重さ480kg）はスタインウェイのフラッグシップモデルです。スタインウェイで聴くピアノソナタ、どうぞお楽しみになさって下さい。（のん）

\*\*\*\*\*

#### 【4】コンサートのアンケートから

-----  
前回のジョイフルコンサート（1月26日公演）『Viva! Diva! Oboe!』は如何でしたか？

「Web アンケート」には、演奏のご感想や運営について、今後のご希望など貴重かつ熱心なコメントを頂きました。今回もその一部をご紹介します。

アンケートでの質問「今回のコンサート内容はいかがでしたか？（5段階評価）」では、「大変良かった」94%、「良かった」6%で、これまでの Web アンケートの中でもベストスリーとなる極めて高い評価でした。

自由記入欄の「演奏のご感想」では、

『歌っているようにも聴こえ、オーボエの魅力をとても感じさせる、本当に素晴らしい演奏でした！』  
『荒川さん、黒岩さんの大変素晴らしい演奏を聴かせていただき、音楽の楽しさ、音楽の持つ力を改めて実感させていただきました』『最高でした。オーケストラの一部でしか知らないオーボエに対するイメージが一変しました』『演奏の緊張感とほのぼのしたトークのバランスが完璧で、音楽好きもクラシックに馴染みない方も楽しめたのではないかと思います♪』など、たくさんのご感想が寄せられました。

また『演奏者が演奏したい曲でプログラムを組むという姿勢がとてもよいと思います』『贅沢なプログラムで、古典から現代のジャズ風な作品まで堪能』『演奏もプログラムの構成も大変素晴らしく、旅しているような、それぞれの国の良さを感じました』などプログラム構成に関するコメントもありました。

「運営について」では、『初めて来た会場でしたが、案内もあり親切だったと感じます』『実行委員会の皆さんも慣れた様子で受付周りなど滞りなく進められていたと思う。長く続けて来られた実績が感じられた』など好意的コメントが寄せられました。

一方、『ホールのスピーカーの性能が悪いのか声が聞きづらい』『ホールの音響が少々残念』『会場の暖房が暑かった』などのご意見がありました。

頂いたご意見やご提案も参考にしながら、引き続き運営の改善をして参ります。  
アンケート回収数:36(回収率17%)

\*\*\*\*\*

#### 【編集後記】

NHK大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」をご覧になれていますか？  
「江戸のメディア王」といわれる蔦屋重三郎(1750-1797)を主人公とした物語ですが、蔦屋重三郎が活躍したのがどのような時代だったのかも気になりますね。  
ヨーロッパでは産業革命、フランス革命(1789)が起こり、社会構造が大きく変化した時代と重なります。クラシック音楽の世界では、ハイドン(1732-1809)、モーツァルト(1756-1791)、ベートーヴェン(1770-1827)が活躍する時代で、何とモーツァルトと蔦屋重三郎は“同世代”ということになります。(お)

\*\*\*\*\*

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

#### ■次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

#### ■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー(PDFファイル)はこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

#### ■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>